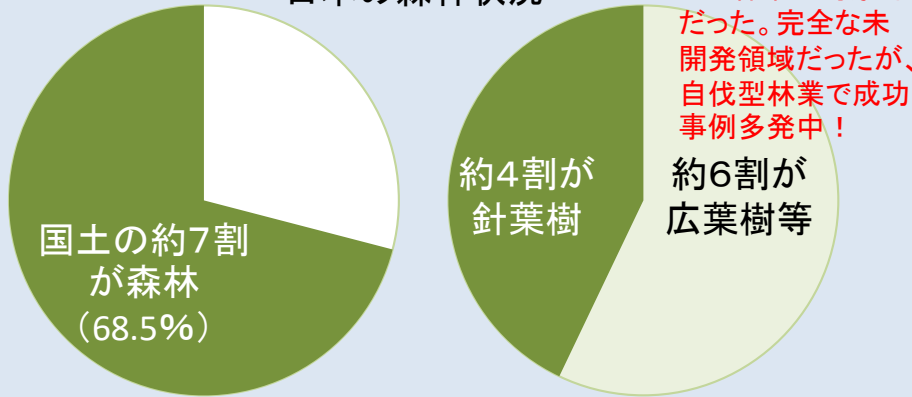


国土の7割の森林を活用し、持続する就業と生活を創る 持続発展可能な農山村地域開発のカギ「自伐型林業」

日本最大の国土資源＝森林

日本の森林状況



(出典)FAO
「Global Forest Resources Assessments」

(出典)林野庁「平成26年度森林・林業白書」

世界各国の森林率

(国土面積に占める森林面積の割合)

国名	森林率(%)
1 フィンランド	72.9
2 スウェーデン	68.7
3 日本	68.5
4 韓国	63.0

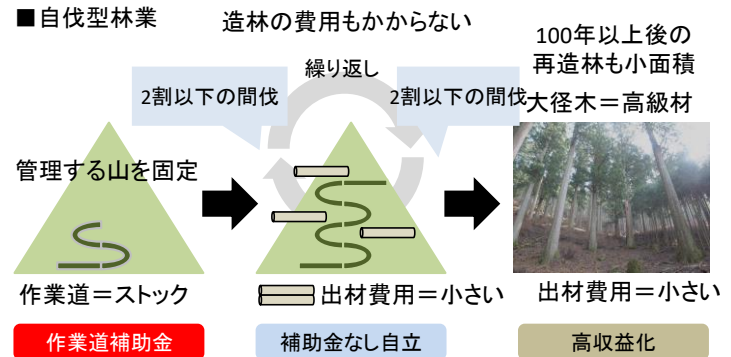
(出典)FAO「Global Forest Resources Assessments」

林業適地

日本は温帯地域に位置し、四季があり、海に囲まれ雨が豊富。世界的にも樹木の生育に恵まれた地域(林業適地)。林業の歴史も古く、技術もある。

自伐型林業とは

自伐型林業は、山林所有者や持続的に生業を営む林業者が、経営すると決めた山を離れることなく、責任を持って100、200年大事に山林を守り育て、後世へと山と仕事を引き継いでいくものです。林業先進国のドイツの民有林では、この長期的な多間伐林業が自伐方式で展開されています。自伐ゆえ、質の低い樹種である「トウヒ」中心であっても産業として成り立っています。この長期にわたる多間伐林業を世界で初めて展開したのは、奈良の吉野林業です。つまり自伐型林業は原点回帰とも言えるのです。



■現行林業

- ・50年生程度で皆伐・再造林する、低質材の大量生産型林業(短伐期皆伐施業)
 - ・山林所有者は作業請負する業者に委託し、請負業者が一気に伐採する
所有と経営の分離 → 一部の林業企業が独占状態に(既得権益化)
 - ・大量生産するために大型高性能林業機械を導入(高投資・高コスト型)
 - ・需要先は合板・集成材(B材)、大規模木質バイオマス発電所(C材)、一辺倒
- 高投資・高コストかつ、単価の低い低質材生産は採算の悪化が顕著となり、植林・造林、育林、間伐、皆伐・再造林、すべて、常に高額補助金が必要に**

大型高性能林業機械での大量伐採は、森林劣化による森林経営の持続性喪失や、山腹崩壊・土砂災害誘発に直結し、社会問題化しつつある。

日本最大の国土（地域）資源である森林を生かした「住み続けられる国土」

自伐型林業が森林を就労の場に変えるだけでなく、環境・コミュニティ・経済を新たに動かす

森林を生かした「住み続けられる中山間地域へ」

100万人就業創出

国土の7割を占める日本最大の資源、森林。この森林資源を生かして、林業先進国であるドイツ以上の就業を創出する。これが地方創生の鍵である。それにより、中山間地域に持続的な仕事が生まれ、都市部からの移住が現実的な選択肢となる。また、これまで条件不利地で営まれてきた農業との兼業を行うことで、中山間地域農業の存続を実現することができる。



70兆円の生態系サービスの持続

皆伐を行わず、持続的森林経営を行う自伐型林業が、貨幣換算すると70兆円とも言われる森林の多面的機能(生態系サービス:生物多様性保全、地球環境保全、土砂災害防止機能/土壌保全機能、水源涵養機能、快適環境形成機能、保健・レクリエーション機能、文化機能)を維持・増進する。



都市と地域の格差解消へ 農山村の新たなライフスタイル

戦後すぐは、8:2で地方中山間地域に住む人の割合が多かったが、現在ではその割合は逆転している。「消滅自治体論」が叫ばれる中、自伐型林業により移住を促進し、農山村地域に新しいライフスタイルを生み出す。同時に、地域福祉に関わる地域中核人材を持続的に創出し地域を再生。人口偏在を解消に向かわせる。持続的な森林経営を仕事に暮らし始めた人は、次の代に仕事を引き継ぐため、持続的住人となり、地域のリーダーになっていく。



GDPの1%を担う林業・関連産業

林業それ自体はもちろんのこと、森業、加工産業、木造住宅、内装、家具、製紙、林業関連機械を総合して、GDPの1%程度を林業・木材関連産業が担う。これは日本の国土、気候風土に合った、持続的な産業が生まれることを意味する。付加価値がついた高級材は輸出品にもなっていく。



現行林業に比べて10倍の就業創出力・国土保全

忘れられた国土(森林)を活用して生まれる就業(仕事)を通して、国土が保全され、コミュニティが再生する

現行林業

問題点も多く、長年根本的療法がなされなかった結果、『林業は儲からない』という社会認識が一般化した。また、合板・集成材と発電所用の低質材中心の生産(弱齢林伐採)と、高額な機械投資により採算が合わず、高額補助金が状態化している。

若齢期に皆伐・再造林する
(50年皆伐施業)

所有と経営分離
大規模化
伐採業

高投資・高投資
の高性能林業
機械の導入



再造林地の崩壊

荒い作業道が崩壊

列状間伐による風倒木



皆伐土砂流出



山腹崩壊・土砂災害誘発・風倒木等、持続的森林経営が不可能となる森が、全国で続々と増えている

自伐型林業を核とし、森林を生かした地域創生・社会システムの構築

■自伐型林業

自伐型林業は、現行林業の問題点をすべて解決し、就業力10倍以上、補助金ゼロへ、環境・土砂流出・獣害の根本対策、森産業・農業・観光・地域福祉・コミュニティ再生

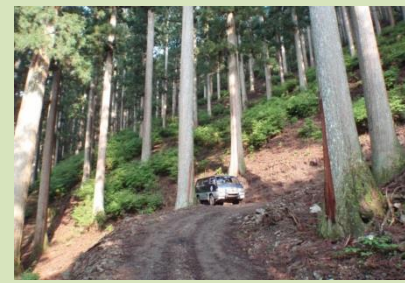
100年以上にわたる多間伐施業・その後小面積再造林

所有と経営を密着させた自立・自営の林業、兼業・家族経営推奨

小規模高密度路網により小規模機械搬出を実現、安全性も向上



●国土保全



高密度路網が、山腹工や小規模堰堤工の役割を果たし、予防砂防・予防治山も非常に高い(左:山腹工、右:アンカー)

2011年紀伊半島豪雨、2018年西日本豪雨を受けても崩壊なし

自伐型林業の可能性 ～日本の林業と農山村を変え、さらに世界の林業・山村を～

地域住民が自由に対応できる自伐型林業で、忘れられていた「森林」を活用して、衰退化した日本林業を再生させ、持続発展可能な農山村地域開発の実現させ、それは世界の林業と山村をも変革する力がある

日本林業の歴史を振り返りながら

日本林業の植林の歴史は古く、江戸時代中期(1700年頃)には大きく繁栄し、持続した長伐期の択伐施業を生み出し世界一の林業が展開された



第二次世界大戦で敗戦し、その後、欧米型林業である大量生産型の短伐期の皆伐施業が導入・普及された後は林業が大規模な伐採業となり衰退の一途をたどり、現在に至る

日本の伝統林業を基礎として、参入容易なレベルの高い手法を開発それが『自伐型林業』永続的に持続可能な森林経営ができ、非皆伐で間伐生産を繰返す、世界最高レベルの林業手法である「自伐型林業」で日本林業を立て直す

- 草の根(地域住民・有志)で始まり
↓ (1,300人以上)
- 基礎自治体(市町村)が急拡大
↓ (43市町村)
- 県や企業にも広まり始めた
↓ (22企業3県)
- 国はまだこれから

自伐型林業による持続発展可能な地域開発が進展



日本林業の再生
日本の農山村創生の実現



世界の
林業・山村再生へ
(他国も同じ問題を抱えてるのでは)

